令和６年度第２回白井市総合計画審議会

議事概要

日　時：令和６年１０月２３日（水）午前９時３０分から午前１１時３０分まで

場　所：白井市役所本庁舎２階災害対策室２・３

出席者：【委員】

関谷昇会長、手塚崇子副会長、松浦健治郎委員、飛田毅委員、松井利一委員、中野七生委員、中村教雄委員、清水達人委員、宇津野嘉彦委員、林陽子委員、亀山二三雄委員、山﨑新一委員、佐野由加里委員、鈴木理恵委員

【事務局】

板橋企画財政部長、村越企画政策課長、齋藤主査補、多納主査補、菅原主任主事

傍聴者　２名

１　開会

２　議題　（１）第１５回住民意識調査報告書（案）等について

〇会長　議題１について、事務局から説明をお願いします。

〇事務局

資料に沿って説明

〇会長　説明ありがとうございました。この住民意識調査、それからこの議員のワークショップについて、今、一通りポイントを確認いただきました。今日、このことについて詳しく踏み込んで議論する時間はございませんけれども、これらの意識調査の結果、ワークショップの結果を踏まえて、ちょっとここを確認しておきたいとか、ぜひこの部分だけは意見を言っておきたいということがありましたら、頂ければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

意識調査も大きな変化というわけではなさそうですけれども、それぞれの居住地域ごとに少し課題の特徴、見方の特徴というものが出てくるかなというふうに思いましたし、あと、個人的には、市民参加とか協働の部分、例えばＰＴＡとかのなり手がいないというのは、一般的傾向としてはそうだと思いますけれども、ＰＴＡがなくなったらどうなってしまうのかということをどこまで考えているのかということを踏まえると、もう少し違った見方も出てくるかなと思いますが、これは、いろいろな議論がこれから開かれていくところが大事かなと思います。いろいろな部分が見えてきているところがありますけれども、ぜひここを確認しておきたいということがありましたら、お願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

〇委員　ＰＴＡについての説明があったので申し上げます。世間一般的に、ヤフーニュースのトピックとかでもそうなのですけれども、世間一般的なイメージプロブレムとして、ＰＴＡのブラックさ、旧態依然としたＰＴＡのブラックな部分は確かに全国各地にまだ残

っている側面があるのですけれども、そういうイメージに引きずられて、特にまだＰＴＡ活動をやられたことがない方、あまり引き受けられたことがない方を中心に、ここはネガティブな回答をされる傾向があるのかなと思ってはいます。

これは、前回、私は都合により会議に出席できなかったのですけれども、議事録等拝見させていただいてすごく感じましたのは、まちづくりにおけるハード面、いわゆるショッピングモールみたいなものは、別に印西とか松戸とか都内に行けばいいじゃんという意見がある一方で、白井の場合だと、ハードよりソフトのほうなのかなと思っております。そういう意味ではＰＴＡの部分を、白井市のＰＴＡ連絡協議会としては、白井なだけにホワイトな運営を心がけている部分もありますので、そういった部分を我々ももっともっと、ヤフーのニュースのコラムでブラックなＰＴＡの研究で取り上げられているようなことは、白井市のＰＴＡには極力ないように申し合わせた運営を心がけているので、そういうところをもっと我々も発信していって、発信していかないとＰＴＡのなり手が生まれていかないですし、それは会長がおっしゃったように、学校、特にこれも協働だと思うのですが、自助・公助・共助ではないですけれども、ＰＴＡというのは共助の部分だと思いますし、まさに学校だけではやれない部分、個人の家庭だけでは賄い切れない部分をみんなで賄おうという部分の趣旨があるので、一つの協働の在り方を今後どうしていくのかという部分のある意味シンボリックな部分、特に、我々現役世代が担っている部分でもあるので、ここの部分のイメージの改善等を発信していくことで、まちづくりの、まちづくり協議会の中でも入ってきますので、この担い手になっていければなと思いました。

○会長　御意見ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。どうぞ。

○委員　これについての質問というよりは、追加の資料の６ページの公共交通空白地帯解消というところで、デマンド交通の導入ということがございますけれども、それで最近考えていたことが、交通の解消と、また、産業の育成ということで、今、Ｌ４という交通システムが注目されていますよね。ＲｏＡＤ　ｔｏ　ｔｈｅ　Ｌ４という、あれはＩＴ化に伴う自動交通システムによるシームレスな、白井だけではないかと思うのですけれども、そういう交通システムでということがあって、それで今、人材不足だとか、高齢化で飛び地で御不便なさっている方とか、自動化のＬ４システムによって常に自動循環しているというモデルが今、考えられているらしいのですけれども、とても今の方向に合うことだなということと、産業の育成、企業誘致ということで、国とか民間全て協働でそういう地域のモデルを今やっているのです。そうすると、まず、雇用も生み出されるわけなのです。それに関わる研究者、デマンドとＬ４が同じなのかどうか、似たようなことだと思うのですけれども、それに伴う技術開発者、それに伴ういろいろな企業ですよね。そこにまた新しい人材が入ってくる。ここは成田であるとか、羽田にも１本で行ける、また、都心にも行けるということで、とても地域としては。まだまだ日本全国でこれに名乗りを上げてい

る自治体が少ないので、皆さん、考えていらっしゃるとは思いますよ。もう目の前に来ている未来ですから、ということをこれとともに考えていただきたいなということです。よろしくお願いします。

○事務局　御意見ありがとうございます。もちろんおっしゃるとおりでして、うちも自動運転化とか、そういったものにすごく興味があるところではあります。企業誘致の面に総合計画素案のほうで触れておりますけれども、こちらがよく勘違いされるのが、税収だけを見て企業誘致ということを考えているのですけれども、そうではなくて、そことさらに連携して新たなチャンスを生み出すとか、そういった技術連携ですね、そういった部分ももちろん視野に入れて取り組むということを、思いとして詰まっているものを作成しております。

○会長　もう構想案の中身のほうの議論に入っていったほうが、多分、皆様いろいろ発言しやすいかなというふうに思います。この意識調査については、これからの総合計画づくりの中でも前提となっていくものですし、市民の皆さんがどういうふうなところにどういうふうに着目しているのかということは常に問われることですので、引き続き、押さえておいていただければと思います。

また、議員のワークショップの結果についても、非常に大事なキーワードが幾つも出ているのかなという印象があります。例えば、資源の循環のまちづくりというのは大事な視点ですし、様々な地域の拠点をどう捉えていくのか、地域の個性をもっと生かしていくといったような視点も反映されていまして、この辺も総合計画の中でどういうふうにうたわれていくのかということは大事な部分かと思いますので、このことを含めて、この総合計画の中身のほうで、さらに御検討を頂戴できればと思います。

ということで、議題の１については以上とさせていただいて、この後、基本構想の素案について事務局のほうから説明をいただきますので、それで個々の内容について、ぜひ御意見などを頂戴できればと思います。

２　議題　（２）総合計画基本構想の素案について

○会長　議題２について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料に沿って説明

○会長　ありがとうございました。今、資料２－１、２－２、２－３に基づいて、現段階での基本構想の素案について説明をいただきました。

前回の資料から少し肉づけがなされて、イメージも少し膨らんできているところかと思います。もちろん基本構想なので、まだまだ総花感であるとか、あるいは抽象度が高いといったところはあるかと思いますけれども、これを基に基本計画というものが結びついてくるということで、その方向性をある程度示しているということ。そして、今回の肉づけ

の中では、例えばこの10のテーマといったことを、よりストーリー性を持って結びつけていくというところですとか、あるいは８ページ、９ページのところにあるように、どういう人と結びつくことによって、どういうまちづくりを目指していくのかということが、ある程度イメージとして浮かび上がってくるような、そういう修正を今回施していただいたのかなというふうには思います。

それぞれ皆さんのお立場からお考えになっているところもいろいろおありかと思いますので、今、事務局が説明したことを踏まえた上で、ぜひ皆さんのほうから御質問、御意見等を頂ければと思います。どの箇所を言っていただいても全然構いませんので、自由に御発言をお願いしたいと思います。

お願いします。

○委員　非常にいろいろな審議ですとか討議を重ねた結果、市議会の皆さんも当然含めて、いろいろな意味では、方向性として皆さんの意見が反映されたものになってきたなという感じはしているのですが、こういうものを実現していこうとするときに、一つ、現状白井市で進んでいる活動というのですかね、民間のそういうものに対して、こういうプランのことから反するようなものをある程度規制していくという、白井市にはまちづくり審議会みたいなものがありますし、そういうところで規制をかけていかなければいけないようなものも、一方ではつくっておいたほうがよろしいのではないかと。

実は、大変失礼なのですけれども、私、鎌ケ谷市を通って白井の工業団地まで来ているのですが、鎌ケ谷市はその手を打たれたのかどうか分からないのですけれども、いわゆる梨農家さんがなくなる、そうすると、建て売り住宅が建つ、道路はそのままというような状況がものすごく散見できるのですね。多分、建て売り住宅を建てられるところは、今の法律に基づいて申請されて、許可を取ってやられているわけでしょうけれども、小さな公園がそこの周りにちょこっとある、または、雨水池ができると。そうすると、二、三十戸の建て売りが可能だと。それから、新規の工場建設ですとか、新規の産業の進出については、私は工業団地の中で事前の審議というのを市から業者さんが委託されて、工業団地として審議させていただいておりますけれども、そういう部分も必要なのではないかと。まちづくりの構想だけではなくて、それに反する方向のものを規制するみたいなものもあるのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○会長　事務局、お願いいたします。

○事務局　ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりでして、いわゆる連担開発といいますか、スプロール化ではないですけれども、そういった無秩序な開発という部分がおっしゃっていただいた部分だと思うのですが、そちらは今回の構想で掲げております「守る」というところにつながってくるのかなと思っております。

また、具体的なハードの部分は、こちらと一緒に同時でつくっています都市マスタープ

ランというものがありまして、こちらのほうも併せて改定する予定でございます。そちらの中で、今言った御意見、大変貴重な御意見だと思いますので、白井のよさを守るというのはどういうことなのかという視点は存分に反映させた形で、マスタープランのほうを策定していけたらと思っております。

○会長　その辺は、基本構想を踏まえた基本計画の部分でも、少しそういった話が出てくるかと思いますし、各種計画、プランとか、条例とか、その辺がまたどういうふうに位置づけられてくるのか、それがどういう意味を持ってくるのかというあたりも、この後どんどん出てくるところかと思いますので、ぜひその中で、また確かめていただければと思いますが、今御指摘いただいたように、いろいろなものを守っていく、規制しながら守っていくというのもあるし、規制することが逆にまた新たな価値を創出していくという部分もあると思いますので、その辺を含めて、ぜひ今後の流れで、またその辺は注視していただけたらなというふうに思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○委員　皆さん、こんにちは。本日は、遅参して申し訳ありません。時間を間違えて10時だと思っていました。期日前投票なんて、のんびりやっている場合ではなかった。本当に申し訳なかったです。

住民意識調査報告書を大量にありがとうございます。これは非常に分かりやすくて、問題点、重要度、こちらで読み込むと分かるのかなということで、大変お疲れさまでした。

それで、一番最初に、骨子との主な変更点の資料２－２なのですが、私の教養のなさかどうか分からないのですけれども、会長が以前の委員会か何かでテーマについて言及されていたのですが。変更で「白井市に関わる多様な主体の豊かさと幸せの実現」となっているのですが、これに引っかかって、ずっと。これはどういう表現したら、どういうことなのだろうと、僕なりにいろいろ考えたのですが、実は、やっていくうちに答えが、あ、ここにあったのかと、この言葉はというのが、資料２－１の総合計画基本構想素案の12ページの下段ですよね。「多様な主体との＜連携・協働＞イメージ」という文言から来たのかなというのが、ここで、すとんと分かったのですね。

ちょっと御検討いただきたいのは、そのまま「白井市に関わる多様な主体との連携・協働により、豊かさと幸せの実現」というような言い回しのほうが分かりやすいのかなというのが個人的な意見で。バックボーンが見えない中で、僕が勝手に納得した一番最初の理想、「白井市に関わる多様な主体の豊かさ」という、この文言にちょっと引っかかっていたのです。どういうことなのだろうと。御説明の中の12ページ、あ、これだと思いました。まさに行政というか、皆さんがお考えになっているのが、ここなのかなと。資源の共有ですよね。限りある予算ということもあってということだと思うので、非常に分かりやすい資料の作成、ありがとうございます。私見ですが、ここの文言については御検討いただければと思います。

以上です。
○会長　事務局、お願いします。
○事務局　ありがとうございます。こちらを策定している中で、どうしても客観的な視点みたいな部分がこういった資料をつくる際には抜けがちになるところだと思うのですけれども、文言の統一ですとか、あと、こちらを実際、市民の目で見たときに、ぱっと見て伝わらなければいけないものとなりますので、よりよい表現といった部分は検討していきたいと思っております。ありがとうございます。
○会長　主体というのは、なかなか表現が難しいところもありますけれども、意味合いとしては、もちろん白井に住んでいる住民という視点もあるし、白井にいろいろな関わりを持つ人たちという意味もあるでしょうし、その辺はもう少し検討しながら、表現については考えていけるといいかなと思います。
○事務局　ありがとうございました。
○会長　ほかにいかがでしょうか。
はい、どうぞ。
○委員　６つの政策とか10のテーマとかいうことで、限られた予算だとか限られた資源の中でやっていくためには、何かどこかをフロントランナーといいましょうか、何かの観点というか、何かのテーマをどんとぶち上げることによって、周りもそれに関連してよくなっていくというようなまちづくりの仕方があるのではないかと思って。
今後は、この全体を少しずつ進めるというのもいいのかもしれませんけれども、何か一つをとがらせていく、そのことによって、そこへ予算だとか資源、人材をつぎ込んでいくということが決まっていくと、それが周りを引き込んでいくというふうに動いていくのではないかなと。
よく活動で、トップランナーとかフロントランナーを先に意識的につくれというのがありますよね。そういうことによって周りの全体のレベルが上がってくるという仕組みがあるのではないかなと思って、今後の活動で、多分そういう売り物といいましょうか、そういうものが決まっていくのだろうと思いますけれども、そういうのはどうやって決めるのですかね。そういうものが明確になっていくと、皆さんから具体的なプランとかアイデアとか知恵が出てくるのではないかなということを思っております。
○会長　お願いします。
○事務局　ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、このコラムですと、「災害に強いまち」というところから発生しているところにはなりますが、それぞれ何をしているかというと、この一つのまちを目指すことで新たなチャンスが生まれると。そのチャンスを逃さないためにチャレンジするというところで、次のまちにつなげていくというところで、この「６つのまち」というのを書かせていただいています。こちらは、今、構想上だと優先順位というものを特に設けていないのですが、これからこれにぶら下がっ

ていく計画については、この10年の構想とは別に５年の計画で、より短いスパンの計画となりまして、その中で、まだ未定ですが、いろいろな議論を重ねて、今の白井市でどれができるのかというのは、今の視点がすごく大事だと思いますので、そこを踏まえて考えていきたいと思っております。

○会長　その辺は、ある程度実践に関わる部分があって、この構想、計画を踏まえた上で、どういう解釈が生まれて実践が出てくるのかというのは、いろいろ開かれていく可能性があるところですので、要するに計画というのは、いろいろな動きを開いていざなっていくようなものでなければ意味がないので、そういうふうな計画に、ぜひその辺はなっていけるといいのかなと思います。

どうぞ。

○委員　先の委員の御意見を拝聴して、本当にそのとおりだなと思いまして、会長も前年度、前々年度の総合計画審議会の頃から、重ねて御発言されていたのは、エッジを立てるといいますか、白井市ならではのメッセージ、自治体が全国に数百あって、県内にも数十ある中で白井を選んでもらうためには、刺さるようなものを発信しないといけないと。

今、トップランナー、フロントランナーになるべきメッセージというのは、例えば、よく流山市の例を出されていましたけれども、「母になるのなら、流山市。」と言い切ってしまっているわけですよね。いろいろな諸課題がある中でも、そこだけを言い切ってしまっている。でも、それがトップランナーになって、どんどん子育て世代の人口が流入してくることで、結果的に税収も上がり、産業の整備とか、いろいろな好循環が生まれていくというのはその一例だと思うので、10のテーマ、６つのテーマ、いろいろあるものの、それらがどうしても点と線になってしまっているので、白井ならではのエッジをどこで立てるのかという視点を、ワードの候補例がいろいろと組合せで出ていますけれども、その視点がすごく欲しいのかなと。

多分、流山市の場合だと、マーケティング課というものをわざわざ市長さんが設けて、マーケティング的な視点で、宣伝になったほうがいいわけですから、どうやったほうが広報に取り上げられるか、どうやったほうが市民に伝わるのか、メディアに取り上げてもらいやすいのかということを考えに考え抜いてメッセージを出していると思うのです。そういう視点を市役所全体の省内の部課を横断する、プラス外部の知見も入れて、メッセージを考案されていくといいのかなと。

個人的には、私がすごく思うのは、白井ならではのメッセージが詰まった単語は「ホワイト」だと思うのです。今、ブラック企業、ブラックＰＴＡ、ブラック学校、ブラック市役所、何でもブラックとつけているではないですか。白井はホワイトですと。ホワイトになるに当たっては、別にばかでかいショッピングモールを誘致しなくてもいいのです。ソフト面で行けるので、ホワイトなＰＴＡ、ホワイトな市役所、白井だけではなくて、私もいろいろ参加させていただいていて、伏魔殿みたいな議会や伏魔殿みたいな市役所はいろ

いろありますけれども、市長さんから、市役所の皆さんから、市民の皆さんに至るまで、本当にホワイトな風通しのいい街だなと思いながら生活している部分がありますので、田舎の最先端はここの部分にあって、いざ田舎に行くとブラック共同体的な部分があったりする中で、白井はそれが比較的ない。そういう部分を発信していくと、白井ならではの魅力が伝わりやすいのではないのかなと。これは超個人的な意見ですけれども、そのぐらい何か刺さりやすいメッセージや単語があったほうがいいのかなという一例で、どうかなと思いました。

以上です。

○事務局　ありがとうございます。どれにとがるかとか、そこら辺をこの場でお伝えするのが難しい部分がございまして、その御意見を参考にさせていただきたいところではあるのですが、ホワイトというところも、シティプロモーションですよね。そこの部分をどういうふうに白井が宣伝していくかという、そこで新たな白井の魅力とか、そういった部分が出てくる部分もあると思いますので、そちらの御意見を参考にさせていただければと思います。

○会長　それも基本計画と絡んでいろいろ出てくるところかなと思いますけれども、本当に御指摘のとおりで、この白井ならではのものというのを掲げるということは、市民の方にとっても、いろいろな意味でのモチベーションを高めていくところにつながると思いますし、外部との関係性を捉える上でも、各方面をつなぐ意味合いというものを持っていくのかなと。今の素案ですと、８ページのところに少しそれを絡めたストーリー性を描こうとして、その後、次のページのところでも循環するというふうなことは描かれていますけれども、さらに、それがどういうふうな形で示されるか。例えば、若い世代が定住するまちといっても、若い世代というものをどういうふうに想定するのかというのは、さらに踏み込んで考えるポイントだったりするのです。

先ほど出た流山であれば、共働きの収入が大体1,500万円ぐらいの家庭の、要するに若い世代にどんどん移り住んできてもらいたいという戦略を立てて、マーケティングでさらに受けのいい戦略をどんどん立てていくと。それが白井にいいかというと、私は決してそうではなく、また違うものがあるのかなと思いますけれども、白井ならではのものをどういうふうに、戦略とともに組み立てていくのかというのが、ここの６つの取組に関わってくるところかなと思います。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員　私も読んで思っていたのは、皆さんと重なる部分があるのですけれども、多岐にわたって書かれてはいるのですけれども、本当に実現可能なのかなと感じたところはあります。もちろん期待を持って書くことも大事だとは思うのですけれども、ここの街が言っていることをただ言うだけではなくて、白井がどうしたいのかという腹が見えてこないということと、あとは、実現可能なところか、それよりちょっと上ぐらいのところを目指し

たほうが、市民の方も関わったり、取り組みやすいのではないかなというのは、とても感じたところではあります。

以上でございます。ありがとうございます。

○会長　実現可能性というのをどういうふうに高めていくのかという御質問かと思いますが。

○事務局　ありがとうございます。計画の取組展開のところで、ＥＢＰＭとロジックモデルというものを書かせていただいておりまして、こちらは10年間の視点というところと、次にぶら下がってくる５年間でどこまでできるかというところにもよるのですが、ここの目標値のＥＢＰＭとかロジックモデルにすると、いわゆるゴールのキーゴールパフォーマンスのＫＧＩとかＫＰＩといった数値目標というものを掲げますので、これからつくる計画の中で、どういった数値をつくるのかで実現可能性というものは変わってくると思いますので、あまりにも突拍子もない数値を設定してしまうと、やる気とか、市民参画のハードルとか、そういったものに関わってきてしまうので、そこは計画のほうで意識して、取組を考えていきたいと思っております。

○委員　ありがとうございました。

○会長　この基本計画の中で、それぞれについて、どういう現状なのかと。それを踏まえて、どういう施策をそこに組み入れて、どういう数値目標で、どういうふうに進めていくのかという、その辺のいわゆるロジックモデルというものを全面的に駆使しながら、現状からできることを一つ一つ組み立てていくということで、ロジックモデルの導入というのは白井市でもずっと検討してきて、大分、今回、形になりつつあるのかなというふうに思いますけれども、一応、そういった形で、現状に即した動きをつくり出していくということが想定されているというところかと思います。

ほかにいかがでしょうか。全体に関わるところでも、皆さんが関わる具体的な分野、取組でも、どういったことでも構いませんけれども、いかがでしょうか。

○委員　今日、初めて参加させていただいて、いろいろな皆さんの御意見を聞きながら、非常にすばらしい案が出てきているなとは思ったのですけれども、私も印象としては、先ほどから出ているように白井らしさというのが、６つの将来のまちの姿を見たときに、白井らしい環境が残るまちという、そこだけ白井という名前が出ているのですけれども、ほかのところでは、あまり白井らしさが出てきていなさそうな感じもしていて、そこが少し気にはなりました。なので、細かく見ると、地盤が固いとか災害に強いとか、あるいはニュータウンとか、いろいろな白井らしさが出ているのですけれども、全体として白井らしさをどんな形で生かしていくのかというところが、ちょっと見にくいような気もしています。そこが少し、第一印象としてはあります。

○会長　この白井らしさというのは、なかなか描きづらいところも行政的にはあるかもしれませんけれども、多分、今後この審議会の中でいろいろ、ぜひここに力を入れるべきだ

とか、こういう白井らしさを出していくべきだという御意見が出てくると思いますけれども、事務局的には改めていかがですか。

○事務局　こちらは、確かに白井らしいというのが４番のところにしかかかっていないという部分はあるのですが、こちらの部分の６つを柱にして、次、具体的にどういう取組を進めて、そういった白井特有のものというのをつくり上げていくかというところは、次の計画のほうで、その色を出していきたいと考えているところとなりますので、そう考えております。

○会長　この辺は、前の会議でも申し上げましたけれども、ポストニュータウンという中で、これからどういう白井の街をつくっていくのかというのは、大きな視点として問われてくるでしょうし、片や鎌ケ谷は、交通の要衝というところで、そこから新たな動きというのをつくり出していますし、印西は印西で、商業施設の集積というところをはじめ、それなりの形をつくろうとしていると。その間にある白井というものが、どういう特徴を持っていくのか。その中で、白井らしい子育てとは何なのか、白井らしい産業とは何なのかという、それぞれが大きく問われていくところがあると思うのです。この辺が抽象的な描き方に留まると、結局どこで言っているものとも同じだよねと。産業の活性化とか、子育ての充実とか、どこでも言っているのです。どこでも言っていることをそのままなぞっても、白井らしさはなかなか出てこないので、どういう表現を与えていくのか。具体的な事業を通して、その辺を表現していくことが一つ出てくるところではあると思うのですけれども、その辺を今後どういうふうに表現していくのかというのは、引き続き検討いただけるといいのかなと思います。

　ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○委員　今のお話を伺っていて、白井の素人の私なのですけれども、白井らしさとは何なんだろうと、もともと考えたことがあるのです。同じ千葉県出身のお友達でも白井を知らないという、そのぐらい本当に影が薄く、せっかくいいキャラがあるのに生かせていない。

　ただ、例えばヨーロッパで民族衣装とか、民族のフォークダンスですか、それぞれの郷土の今、私たちが考える、例えばヨーロッパだったら、ここには昔はこういう衣装で、こういうフェスティバルがあったというイメージがありますよね。それは産業革命以降に交通網が発達して、例えば毛織物がいろいろなところから集積して、そこで改めて民族衣装ができて、案外歴史として新しいのです。それで今みたいな、結構同じで、いろいろなものを誘致して、いろいろな特産品とかを使って、エッジというお話がありますけれども、つくり上げていったのです。別に古来の習慣が広まってそうなったわけではなく、新たに産業革命以降につくって、私たちが今イメージするいろいろなヨーロッパの各地の衣装であるとか、お祭りというものが出来上がっているのです。ですから、そこが難しいのでしょうけれども、何か白井らしいというものを言い切ってしまうということがとても大事だと思うのです。言い切ってしまう。

これはすごく個人的なことで申し訳ないのですけれども、私、堀込住まわせていただいていて、この間考えたら、氏神様ってどこなんだろうと思ったのです。今まで私が住んだところで、お祭りがないところもなかったし、氏神様があって、皆さんそこに初もうでに行かれる。それで、若い人も皆さんお祭りを楽しみにして、わっと盛り上がる。これが今また、古い町内ではあるけれども、若い人も本当に盛り上がって、それは古今東西で、その地の中心となる教会であり、神社仏閣であり、そういうものを中心とした歴史の上で、皆さんが心からＤＮＡに入っているものが、皆さんを呼び寄せるということがあると思うのです。

白井の場合は、ニュータウンということももちろんそうなのですが、お散歩なんかをしていて、随分古そうな史跡があるのに、そこを活用していないなと。逆に、そこは求心力になるのです。若い人も。うちの子供たちも、いまだに元住んでいたところのお祭りとかが大好きですし、ですので、そのように本当に白井らしさというのは大事だなということで、また、昔のことも大事に思い起こさせるような街にしていただきたいと思います。

○会長　どうぞ。

○事務局　白井の知名度というのはおっしゃるとおりでして、また、伝統的な部分というのがあったと思うのですけれども、それ以外にも、新たに価値を創造するというところの視点はすごく大事だと思います。

また、議員さんのワークショップの中で、目玉になるような場所というのが必要だよねというところはまさにそうで、集まる場とか、そういった部分も、ある意味これから伝統をつくり上げる価値の創造だと思いますので、そういった視点もすごく大切にしながら、これが計画のほうに考えていければと思っております。

○会長　今、非常に大事で、この計画の中で少し弱いなという点の一つがそこなのだと思います。つまり、白井の固有性ということは、裏を返すと、ほかにはないもの。ほかにはないものを見つけるとすると、一つは歴史をたどっていくということなのです。つまり、白井がどういう歴史の中で発展してきたのか、どういう中でいろいろなものを育んできたのか、逆に失ってきたのかというふうなことをいろいろあぶり出していくと見えてくるものがあって、それを現代、あるいはこれからにおいて、どういうふうにまた捉えて、場合によっては生かしていけるのかという、そういうふうな少し長いスパンの中での今ということを位置づけていく。先ほど、ポストニュータウンということを申し上げましたけれども、もっとタイムスパンを長く捉えていけば、多分もっといろいろなストーリー性が出てくるというところもありますので、そういう意味では、いろいろなことをまた考えていくことができるのかなというふうに思います。

例えば、どこかで先ほど出ていた平塚分校というのも、私は非常に大事な一つの施設、資源だと思っていて、あの分校をめぐる様々な歴史的背景だったり、それが持っている意味合いだったり、あの分校を卒業した卒業生たちがつくり出しているネットワークだった

りというふうに考えていくと、これまたいろいろなことが膨らみ得るし、工業団地だって非常に長い歴史を持っていると。それがまたどういう意味を持つのかというふうな、合理的な部分だけではなくて、そういう歴史感覚みたいなものを考えるというのは非常に大事な視点かと思いますので、ぜひ今後また検討いただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員　ちょっとお尋ねなのですが、私は以前もお話ししたように、子育てを、子供３人終わったのですが、今年大学４年生になったときに終わったのですが、僕自身は子育てを保育園、小学校、中学校と、非常に白井市に住んでよかったと思っています。交通も、仕事の関係で羽田、成田という交通の便を目的として、仕事の上でここに引っ越してきたのですが、先ほど皆さんがおっしゃるように、白井市で、私は勉強不足で申し訳ないのですけれども、うちの家内は多古町というところで、多古米、ヤマトイモと。どこと、多古と言うと、多古米のおいしいところと。あと、こちらは以前、梨ブランデーの会社がありましたよね。一時、僕もファンだったのですけれども、あれはなくなってしまったのですかね。ああいう産業であったり、あと、市民まつりというのは、現況どうなのですか。私も参加していないけれども、白井市の市民まつり。これはどこでもやっていますね、市民まつり。

私の住んでいるところは船橋カントリーが多いので、市民ゴルフを開催しているのは非常に盛況で、エントリーが多い。協賛されている方、企業さんということで。お尋ねしたいのは、産業の中で、これから観光なのか、梨ブランデーの復活なのかというところ。それこそ皆さん、お金を出し合って、あれはいい事業だったと思うのです、本当に梨農家の方にも。ああいう特産品があると、お届けするのもいいと。市民まつりについて、市役所の隣に大きな広場がありますよね。もう子育ては終わったのですが、非常にいいロケーションだと思うので、あれを活用したり、市民ホールとその辺で、現況の市民まつりとか産業について、分かれば教えていただきたいです。

以上です。

○事務局　お答えします。ふるさとまつりなのですけれども、昔は場所がなかったので、白井のこの市役所の駐車場でやっていたところがありまして、それが隣に白井総合公園という広いところができまして、また、最近、官民連携で、いろいろ連携しておりまして、その中で企業さんに出展していただいたりとかで、大変その辺も好評いただいておりまして、２日間で４万人来るといったことになっています。

また、梨ブランデーについてなのですけれども、先ほどポストニュータウンとか、歴史とかありましたけれども、そちらも白井のよさの、白井の自己分析ですよね。そちらを市行政だけではなくて、それこそ多様な主体、いろいろな主体のところで考えていって、これがいいとか、そういった部分を発掘して、そこを伸ばしていくといったところが大切な

のかなと思いました。

また、余談になるかもしれないですけれども、総合計画を策定する上で、若い世代のしろいの未来作戦会議というワークショップをさせていただいたのですけれども、そのワークショップの中に参加したグループの人たちが、ふるさとまつりに出展したいということをおっしゃっていまして、それが実際、実現しまして、今回は、先週土日にやりましたけれども、白井産のバナナ、自分もあるのを知らなかったのですけれども、そちらを活用したチョコバナナを売って、大変好評でした。そういったきっかけからの広がりですよね。そういった部分というのは、とても大切なのかなと思っております。

○会長　どうぞ。

○委員　御案内ありがとうございます。先週の土日。

○事務局　先週の土日です。

○委員　あの公園ができてから、何回かやられていますよね。

○事務局　もう何回か。

○委員　私自身があれなのですけれども、知らなかったのです。ふるさとまつりを開催していることを知らなかったので、ちょっともったいない。４万人ってすごいですよね。白井市で４万人の動員、２日間で。大きなイベントなので、これは地域新聞なのか、役所の新聞なのか分かりませんけれども、私が広報を見ていないのですかね。案内している。

○事務局　案内はしています。一大イベントなので。

○委員　失礼しました。私の勉強不足で、すみません。御回答ありがとうございました。

○会長　どうぞ。

○委員　今の件で、先週お祭りをやっていたのです。その中で、お客さんというか、鎌ケ谷の御夫婦がおりまして、その方と30分ぐらいお話ししたのですけれども、鎌ケ谷市内では、こういう大きい公園のお祭りというか、催し物が少ないと。ここでやっているので、私は今回で２回目ですという話をしていました。今回は子供たちも結構来ていたので、すごく周りとのつながりがいいのではないかと思っていますので、これは市のほうに頑張ってもらいたい。継続してやってほしいと。

○会長　ありがとうございます。

ほかにはよろしいでしょうか。はい。

○委員　今、せっかくしろいの未来作戦会議の話が出ましたので、私もちょうどその会議を傍聴させていただいて、今回のチョコバナナとバナナスムージーのお店に至る過程に携わらせていただいたもので。

市長さんがおっしゃっていたのですけれども、このワークショップ、特に、しろいの未来作戦会議においては、どんな白井市になってほしいか、していきたいかだけではなくて、そのために自分たちが何をできるかも考えて発表しようというテーマを投げかけていたのです。この視点がすごく重要だなと思っていまして。

先ほど住民意識調査のアンケートを集計されていたのを総括される中で、市としては、行政はあくまで、まちづくりの主役は市民ですよと。その市民が活動していけるためのプラットフォームを整えて、そこを補完する役割は行政ですよということを伝えていきたいというふうなことを強くおっしゃって。実際、今後10年、20年先の人口減少社会の中で、あらゆることを行政が面倒を見るということは不可能なので、自助・共助・公助の共助の部分のまちづくりを市民主体で進めていってほしいという、そのメッセージがまだまだ、今回の意識調査の時点では、そういうメッセージが市民に浸透していっていないので、こういう機会にもなるのかと思うのですけれども。そのあたり、ワークショップなどを通じて、なってほしい白井市のために何ができるかを若者たちに投げかけたというふうなことはすごく大きなことだったのかなと思いますし、ワークショップの場でも、市長さんと雑談する中で、それこそが自治なんだよねというふうなことをおっしゃっていましたので、それはすごく印象的だったなと思うので、そうしたことも、この総合計画策定の中の一つの手段でもあったのでしょうけれども、非常に意義深いことだったのではないかなと感じました。

以上です。

○会長　ありがとうございます。まさに、この12ページで書いてあるところというのはそういうことなわけで、そういう場や機会というのをこれからどういうふうに創出していけるのかということは、非常に大事になってくると思います。これを世代を超えてこういうことをやれるかどうかというのと、分野・領域を越えてやっていくのだと。地域コミュニティも、まだまだ縦割り化しているというところは間違いなくあって、このことはどこどこに任せておけばいいということではなくて、もっと異質なものが交わっていくということが、また新たな力につながる。だから、発想の創出にもつながるというところがあると思いますので、そういうふうなまちづくりにしていくことが、この構想の中ではうたわれているというところかと思います。

ということで、そろそろ時間ではあるのですけれども、ほかによろしいでしょうか。

前回に比べて、ある程度肉づけも進んで、いい形で修正も加えられていると思います。今後、さらに完成版に向けて、またいろいろ検討が重ねられていくところかと思いますけれども、委員の皆さんのほうからも、もし何かお気づきの点がありましたら、御遠慮なく事務局のほうに御意見等お寄せいただければと思います。また継続して審議のほうも続けていければと思っております。

ということで、議題の２つ目を、取りあえず今日はここまでとさせていただいて、３つ目、その他ということで、事務局からお願いいたします。

○事務局　次回、３回目の予定は、２月５日水曜日の10時から12時で、同じ場所を予定しております。

また、資料２－３の下のほうの「循環」「挑戦」「守る」のキーワードをぜひ委員の皆さ

んにも候補を考えてきてもらいたいなというところもありますので、メールで後日御連絡したいと思います。また、投票パターンはどれがいいかというのも、併せてお聞きしたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いします。

以上です。

○会長　次回、年明け２月５日を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、目指す方向、スローガンについても、併せて御協力をいただければと思います。

今日の議題は以上となります。以上をもちまして、第２回の総合計画審議会を終わらせていただきたいと思います。御協力ありがとうございました。